

北浜小だより 平成21年度 学校評価の報告

学校教育目標

「みんな仲よく、よく学び、よく遊べ 北浜っ子」

目指す学校像 ・美しい学校 ・学び合う学校 ・開かれた学校 ・連携する学校
 目指す子ども像 ・きちんとする子 ・進んでする子 ・根気よくする子

21年度の学校重点目標（21年度に特に力を入れて取り組んだ内容です）

学びを保障する授業づくり 基礎基本の確実な定着と活用する力をつける学習指導
 日々の実践につなげる道徳教育 体力や運動能力を高める体育活動
 ・家庭と連携した学習習慣の確立 ・ふれあいを深めさせる挨拶運動
 ・態度や行動に表れる人権教育 ・運動する意欲を高める体育 ・家庭と連携した健康教育

総合的な自己評価（学校がアンケートを参考にしして取り組みを評価しました）

本年度の取り組みは概ね達成できたと考えられる。教育活動を適時情報発信したり、行事ごとのアンケート結果をフィードバックしたりした結果、保護者の認識と理解が高まってきた。生活・学習規律に対する児童・保護者の認識も高まった。家庭読書習慣は浸透しつつあるが、家庭学習などについては根気強く理解と協力を求めていく必要がある。今後も、取り組みを強化・改善しながら地道に教育活動を推進していくと共に、きめ細やかな情報発信に努め、家庭や地域と連携した学校づくりに努めなければならない。



21年度の評価をもとにして、22年度に取り組む内容です。

自己評価方法の適切さ（学校が行った評価の方法についての意見や要望）

自己評価の方法は、本校の学校教育目標と評価の観点に関連させ、内容も明確であり、妥当性をもっており概ね適切である。しかし保護者にとっては、学校評価アンケートの質問だけでは、学校がどのような意図をもってどのように取り組んでいるか、何を評価するためのアンケートなのか等が十分に伝わってこないため、評価の判断基準が曖昧となり、その結果評価を『B』にしてしまい易い。そこで、保護者用アンケートについては、アンケート項目が評価項目のどれと結びついているかがわかるよう、観点や評価項目の説明を取り入れたものとなるよう工夫をする必要がある。

総合的な学校関係者評価（評価委員の学校の取り組みへの評価と意見や要望）

本校における教育活動は、全般にわたって良好と考えられ、学校自己評価も概ね適切である。また、改善の方策も概ね適切であり、次年度での取組が期待される。しかし、一部アンケートの項目が唐突に質問しているようなニュアンスになっており、「学校側の意図」が十分に保護者に伝わっていないように思われる。例えば学校教育目標の『美しい学校を目指して』は学校重点目標のどことつながっているのかが保護者にはわからない。従ってそれらが一目瞭然で分かるような図式などで示せば少しは理解してもらえるかもしれない。さらには、その重点目標を受けて具体的な日常の教育活動の取組が、どこでどのように行われているのかが分かるような学年・学級だよりを発信していく。そして、アンケートの尋ね方も何のためのアンケートなのかの説明を付け加えると結果は違ったかもしれない。今後はさまざまな活動場で「ねらい」や「具体的な目標」また「子どもたちに な力をつけています」等を、よりタイムリーに、より具体的に、よりわかりやすい言葉で、学校の想いや担任の想いを地域や保護者に伝えられるような情報発信の工夫が求められる。

自己評価結果（ 達成している 概ね達成している やや不十分 不十分 ）

評価の観点	評価項目	達成状況	改善の方策
1 組織運営	教育目標達成に向けての教職員の連携 保護者や地域の人々に信頼される教育実践 重点目標をふまえた学校・学級経営 学校評価の推進	概ね達成	・保護者や地域の方が参加・協力しやすい学習活動の工夫に取組む。 ・重点目標に対応した具体的な学年・学級目標を掲げて実践する。 ・学校、学級便りなどで、教育活動や教育目標・重点目標を機会あるごとに保護者に発信して理解を促す。
2 危機管理体制の整備	家庭・地域・関係機関との連携 実践的な研修・訓練の実施	達成	・火災・地震・不審者侵入対応訓練について事前・事後指導を十分に行うことで危機感を持たせると共に、危機回避能力を身につけられるよう指導を強化する。
3 教職員の資質向上	教師の専門性と実践的指導力の向上 計画的な研究授業・研修の実施	達成	・日常的に授業を見せ合ったり、研究授業後の研究協議会のもち方を工夫したりして、指導力の向上を図る。
4 生徒指導	安心して学び、生活できる学級づくり 児童の内面理解を図る共感的指導 個に応じた教育相談・支援の充実 生活規律の共通理解と指導の徹底	達成	・学校や社会のルールを守るよう、あらゆる生活場面の中で具体的に体験させながら指導する。 ・児童や保護者が気軽に相談できる体制を充実させる。 ・「北浜っ子のくらし」を児童自らが意識して守っていけるよう指導する。
5 確かな学力	指導（学習）時間の確保 「わかる、できる、つかえる」楽しさを味わえる授業の実践 学びを支える教室環境・学習規律 家庭学習の促進	概ね達成	・学びっ子タイムの充実と指導時間の工夫をして、基礎基本をしっかり身につけさせる。 ・北浜小型専科制を生かし、「わかる、できる、つかえる」授業づくりに取組む。 ・「北浜っ子のやくそく」を守りながら、進んで学習できるように指導する。 ・家庭と連携しながら、自主的に計画して取組むという習慣を身につけさせる。
6 道徳教育	全教育活動の中での道徳性の育成 時間の確保と実践力を高める指導の充実	概ね達成	・様々な生活場面で具体的に体験させながら、人や物を思いやる心が育つような指導を続ける。
7 人権教育	発達段階に応じた指導内容の整備・充実 人権尊重の精神の育成	概ね達成	・研修会を実施して人権感覚を磨き、全体での取組を強化する。 ・体験活動を通して、日常生活の中で実践する力を育む。
8 体育・保健指導	運動への意欲、体力・運動能力の向上 望ましい食習慣の育成 自他の生命を大切にす安全教育の推進	概ね達成	・年間通して全校で取組む目標を掲げ、成果を認めながら意欲的に取組めるよう指導する。 ・家庭と連携して、健康的な生活習慣を身につけさせる。 ・交通ルールを守ったり不審者などに対して安全に適切な行動をとったりできるように、定期的な指導を続ける。
9 特別支援教育	指導方法と体制の工夫改善 児童の実態の共通理解と研修の充実	概ね達成	・一人一人のニーズに合わせた、適切な支援に努める。 ・校内委員会・職員会・研修会を通して共通理解を図り、きめ細やかな指導を進める。
10 体験活動	地域の人材や自然・施設等の計画的活用	やや不十分	・地域性を生かした教材づくりや人材確保に努める。
11 校種間連携の強化	保・幼・小の計画的な連携	概ね達成	・学年のねらいに応じた体験活動を行い、保・幼との連携を深める。
12 読書活動の推進	読書活動の充実と読書習慣の確立	概ね達成	・家庭での読書習慣が身につくような手立てに、全校一斉に取組む。

自己評価の適切さ（学校が行った評価についての評価委員の意見や要望）

全体的に達成状況については適切な自己評価であると考えられる。特に、達成度の高い2・3・4の観点については、教職員が教育目標の共通理解のもとに、それぞれの学年や校務分掌等で自己の役割を意識して積極的に取り組んだ結果と言える。残りの観点については、全職員で問題点の是正に取り組んでいただきたい。

組織運営

学校教育目標や学校重点目標については、保護者は関心が薄い。従って学校からの情報発信の仕方を工夫改善する必要がある。わかりやすい言葉で、何度も何度も機会を捉えて保護者の理解を求めていく、その働きかけを大切にしたい。

確かな学力

21年度は北浜小型教科担任制を導入し、5・6年の算数はさらに少人数授業を行い、「わかる授業」を目指して児童一人一人に対して多面的理解を行う等きめ細かな指導を心がけているのが分かる。アンケート結果からも児童は肯定的に受け止めている。しかし、宿題以外の家庭学習は浸透していないようなので、何のためにどのように行うかという「自主学習ノートの使い方の見本例」を提示して、保護者に協力を求めたらどうだろうか。

道徳・人権・特別支援教育、体験活動

教職員は実態に即した研修会を行い、児童理解や相互理解に努めている。また、全校一斉人権授業を行う等、教材開発や指導法の工夫をしながら実践力を養っている。体験活動については、温かみのある人間性や共生の心を育成するよう、活動をより充実したものにしてほしい。そのために地域に向けて、「人材バンク」の登録をお願いする募集要項を配布してはどうだろうか。森林インストラクターや凧作り名人、エスペラント語講師など、人材はあると思う。

読書活動の推進

家庭では自分の好きな雑誌や図鑑しか読まないの、家庭での「読書ウイーク」を年に何回かもち、「10000ページの旅」や「読書の木」などのような励みになるものを活用して推進してはどうだろうか。保護者も読書の宿題を希望している。